

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名： **医学部保健学科**

部局長名： **廣畑 聡**

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>1. 入試関連 ①高大連携やオンラインオープンキャンパスを実施し、魅力ある学科紹介をおこなう。 ②国際バカロレア入試を実施し、定員充足、志願率の向上を図る。 ③入学生アンケートによる調査を行い、入試科目の見直しなど入学者選抜方法の改善を行う。</p> <p>2. 教育の内容・実施体制 ①大学院授業を学部生に提供する。 ②COVID-19患者に対応する医療従事者として必要な、新しい感染症教育をおこなう。 ③コロナウイルス禍での学び継続のためオンライン教育実施を充実させる。</p> <p>3. 教育の成果の評価 ①OSCE(Objective Structural Clinical Examination)を実施する。 ②WBT(Web Based Testing)を実施、高水準の国家試験合格者を維持する。 ③外部評価委員会を開催し、教育、研究、社会貢献に対する活動の評価を受け、改善点を踏まえた目標設定を行う。</p>	<p style="text-align: center;">関連する 年度計画の番号</p> <p>14①、25②、85①、</p> <p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1. 入試関連 ①オンラインオープンキャンパスを実施するとともに、学科独自に県内の高校に対して出前講義等を実施して魅力ある学科紹介を行った。 ②国際バカロレア入試については受験生がなかったが、今後も継続実施する。 ③入学生アンケート調査を実施し、看護専攻の入試科目見直しによる選抜方法の改善によって同専攻の前期志願者を増加(63名→75名:募集人員49名)させた。他の専攻では倍率が前年より低下しており、入試委員会を中心に共通テスト配点や個別試験の選択科目の見直しを行うなど選抜方法の改善を図り、入試改革を推進した。</p> <p>2. 教育の内容・実施体制 ①大学院授業「生体情報解析学特論」「生体情報解析学演習」一部を学部生に提供した。 ②③適切な防護服の着用や飛沫対策など、新しい感染症教育をのべ160名に実施して、安全な病院実習を実施することができた。</p> <p>3. 教育の成果の評価 ①新カリキュラムに先行してOSCEを実施し、実習前教育の内部質保証を行った。 ②WBTを実施して、90%以上の国試合格者を達成した。 ③外部評価委員会では社会貢献に対する活動を高く評価された。重要と指摘された国試験対策の組織的取組においては研究科長補佐を中心とする体制を整えた。</p>
<p>②研究領域</p> <p>研究開発・推進委員会における議論を深め、研究成果紹介活動等の研究情報の発信を行い、外部資金獲得へ向けての戦略をたてて、実施する。</p> <p>研究開発・推進委員会において、若手教員や大学院生の研究をサポートする仕組みを議論し、若手教員や大学院生の研究を推進する。</p> <p>研究力のある、若手教員、女性教員の採用に努めるとともに、国内外からの客員研究員などの受入を実施して、海外研究機関との連携を検討し、共同研究パートナー獲得など、国際共同研究を推進する。</p> <p>科学研究費の採択率を維持するとともに、外部資金の獲得に努める。 (再掲:保健学研究科 ②研究領域)</p>	<p style="text-align: center;">関連する 年度計画の番号</p> <p>保健学研究科にまとめて記載</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>コロナウイルス感染拡大下での国内外の移動が困難な状況であるが、持続可能な国際化を推進するために、国際交流WGで議論し、海外の教育機関、医療・保健機関とのICTを利用した相互交流を実施する。</p> <p>医療教育の見直しなど教育改革に対応するため、コアカリキュラムに対応した医療教育を行う。</p> <p>中学生や高校生を対象とした「保健学科長と語る会」を実施する。</p> <p>SDGsを推進するために、中高生の課題解決型学習をサポートする。</p> <p>多様性を認め合うダイバーシティ&インクルージョン教育の視点から、ボランティア活動を促進する。</p>	<p style="text-align: center;">関連する 年度計画の番号</p> <p>5①、8④、14①、17①、70④、</p> <p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>海外渡航ができない中でも持続可能な学生同士の交流を推進するために、国際WGが中心となってタイ国シーマハサラカム看護大学とのオンライン相互交流プログラムを実施した。</p> <p>新コアカリキュラムに対応した、新しい教育プログラムを構築して開始した。</p> <p>保健学科長と語る会では、述べ12名の高校生が参加し、推薦入試の志願につなげることができた。</p> <p>立命館慶祥高校のハンセン病患者に関する課題解決型学習をサポートし、同校生徒の随筆が全国公募の第25回風花随筆文学賞佳作を受賞するなどSDGsを推進した。</p> <p>コロナ禍であっても、安全に配慮した献血を保健学科棟で実施して、岡山大学職員や医学部学生などによるボランティア活動を推進した。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p>研究科長室会議、研究科運営会議、教員連絡会などの実質化により、ガバナンス機能を強化する。</p> <p>教務委員会、学生生活委員会、入試委員会、広報委員会の連携を強化するとともに、医療教育センターとの連携を図る。</p> <p>優秀な若手研究者を確保するため、テニユア・トラック制の拡大を推進する。</p> <p>若手教員や学生からの意見収集を行うとともに、研究科運営に反映させる。</p> <p>外部評価委員会による活動評価を点検し、改善点を踏まえた目標を設定して実行する。</p> <p>学科や研究科の運営にあたり、女性教員を積極的に登用する。 (再掲:保健学研究科 ④管理運営領域)</p>	<p style="text-align: center;">関連する 年度計画の番号</p> <p>保健学研究科にまとめて記載</p>